



早期発見と 周囲の協力

認知症は放っておいて治る病気ではありません
大事なことは早期発見と周囲の理解
その第一歩を踏み出すことが明暗を分けます

原因となる疾患を見逃さないこと

認知機能低下をきたす原因となる疾患は、アルツハイマー病、脳梗塞や甲状腺機能の異常など、数多く存在します。しかし、「その病気の中でも治療可能なものはかなりあります」と話す日吉診療所の丹下敬忠所長。「最近では新薬が開発されて、今までは経過を見るしかなかった病気が治療可能になったという事例があります。治療の幅が広がっており、対応が早ければ、完治できる場合や、数年後の経過の度合いを抑えることができます」という結果につながるのです。一番の問題は、完治できる疾患を見逃してしまうこと。それが原因で認知症に発展する場合

があるからです。

自分で判断しないこと

加齢とともにさまざまな機能が低下するのは自然なことですが、中には病的な疾患が原因のものもあります。「おかしいと思ったら迷わず医療機関で診察を受けましょう。医療機関では、診察をして実際に認知機能が低下しているのであれば、何が原因でそれが起こっているのかなども調べることができません。必ず自分で判断せず、受診してください」

受診は初めから専門医にかかる必要はなく、近所の医療機関で十分です。その他、若年性のアルツハイマー病も全くないわけではないので若いから大丈夫という油断は禁物です。

近所の協力は不可欠

早い段階で医療や行政が介入するためには、近所の人の協力は不可欠です。例えば、今まで几帳面だった人の家が物で散らかっているとか、徘徊しているとか、そのような情報が入ったら、保健師に伝えるなど、情報交換をするよう心掛けてください。

もの忘れチェックリスト

最近1カ月の間に思い当たる項目に☑してください

- 今まで話していた電話の相手の名前を忘れる
- 同じことを何度も言う・問う・する
- しまい忘れ・置き忘れが増えいつも探し物をしている
- 財布・通帳・衣類などを盗まれたと疑う
- 物の名前が出てこない
- 蛇口、ガス栓の閉め忘れ、火の用心ができなくなった
- 薬を飲み忘れることがある
- 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- 新しいことが覚えられない
- 話のつじつまが合わない
- テレビ番組の内容が理解できなくなった

- 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 慣れた道でも迷うことがある
- ささいなことで怒りっぽくなった
- 周りへの気づかいがなくなり頑固になった
- 自分の失敗を人のせいにする
- 「最近様子がおかしい」と周囲から言われた
- 食べ物などの嗜好が変わった
- 外出時、持ち物を何度も確かめる
- 夜中に急に起きて騒いだり、ウロウロしたりする
- 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- ふさぎ込んで、何をすることもおっくうがり嫌がる

いくつか当てはまる場合は医師に相談してください

参考：公益社団法人認知症の人と家族の会